



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I -17. 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20120586018501	科目番号	05860185																														
授業科目名	●教育と社会 I (教育原理論)																																
編集担当教員	木村 拓也																																
授業担当教員名(科目責任者)	木村 拓也																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 拓也																																
科目分類	全学モジュール I 科目、教職に関する科目																																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																														
教室	[教]21講義室																																
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部																																
担当教員Eメールアドレス	kimura-t@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	アドミッションセンター(入試課奥)																																
担当教員TEL	095-819-2115																																
担当教員オフィサー	随時(メールでアポイントを必ず取る)																																
授業のねらい	これまで経験的に得てきた教育観を歴史上の教育思想と照らし合わせた上で、将来に教員を志望する学生として適切な教育観を構築することが授業の目的である。																																
授業方法(学習指導法)	本講義は、自分の意見を述べながら他人と議論をし、他者の教育観を知り、自身の教育観を反省する機会が得られるように行われる。講義の後半には、必ずグループ・ディスカッションの時間を設け、毎週、自分自身の考えをレポートし、それを提出することが求められる。																																
授業到達目標	西洋教育思想史、及び、近代教育学上の著名な教育学説を理解し、それを十二分に踏まえた教育観を構築することができることを到達目標とする。																																
授業内容	<p>教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について講義する。古代から現代までの西洋教育史、教育思想史の基本的内容を網羅的に解説した後で、日本の教育改革の変遷についても講義する。受講生の状況を見て、講義の順序が前後することもある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教育思想の根本問題—アヴェロンの野生児を巡る逸話</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>西洋教育思想の源流(1) レトリックと教育</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>西洋教育思想の源流(2) 哲学と教育</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>西洋教育思想の源流(3) キリスト教と教育</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>近代の教育思想(1) コメニウス</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近代の教育思想(2) ロック</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近代の教育思想(3) ルソー</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近代の教育思想(4) 古典的人間形成論</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近代の教育思想(5) ペスタロッチとフレーベル</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近代の教育思想(6) ヘルバルトから新教育</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代の教育思想(1) デュルケムと教育科学</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代の教育思想(2) デューイと新教育</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本の教育改革の動向</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	教育思想の根本問題—アヴェロンの野生児を巡る逸話	3	西洋教育思想の源流(1) レトリックと教育	4	西洋教育思想の源流(2) 哲学と教育	5	西洋教育思想の源流(3) キリスト教と教育	6	近代の教育思想(1) コメニウス	7	近代の教育思想(2) ロック	8	近代の教育思想(3) ルソー	9	近代の教育思想(4) 古典的人間形成論	10	近代の教育思想(5) ペスタロッチとフレーベル	11	近代の教育思想(6) ヘルバルトから新教育	12	現代の教育思想(1) デュルケムと教育科学	13	現代の教育思想(2) デューイと新教育	14	日本の教育改革の動向
回	内容																																
1	オリエンテーション																																
2	教育思想の根本問題—アヴェロンの野生児を巡る逸話																																
3	西洋教育思想の源流(1) レトリックと教育																																
4	西洋教育思想の源流(2) 哲学と教育																																
5	西洋教育思想の源流(3) キリスト教と教育																																
6	近代の教育思想(1) コメニウス																																
7	近代の教育思想(2) ロック																																
8	近代の教育思想(3) ルソー																																
9	近代の教育思想(4) 古典的人間形成論																																
10	近代の教育思想(5) ペスタロッチとフレーベル																																
11	近代の教育思想(6) ヘルバルトから新教育																																
12	現代の教育思想(1) デュルケムと教育科学																																
13	現代の教育思想(2) デューイと新教育																																
14	日本の教育改革の動向																																

	15 まとめ
	16 定期試験
キーワード	近代教育学、西洋教育思想史
教科書・教材・参考書	次の課題図書のうち一冊を購入し、読書レポートとする必要がある。 廣田照幸2004:『思考のフロンティア 教育』岩波書店. 荻谷剛彦2005:『学校って何だろう』ちくま文庫 本田由紀2009:『教育の職業的意義』ちくま新書 廣田照幸2009:『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店. 廣田照幸2009:『自由への問い5 教育』岩波書店. 廣田照幸・伊藤茂樹2010:『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』岩波書店. ジョン・デューイ1998:『学校と社会 子どもとカリキュラム』講談社学術文庫. ジョン・デューイ2004:『経験と教育』講談社学術文庫. 参考書 今井康雄編2009:『教育思想史』有斐閣アルマ. 汐見稔幸他編2011:『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房.
成績評価の方法・基準等	中間に課す読書レポートと期末に課すテストの評点を合計して評価する。 課題図書を購入する必要があるので注意すること。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	教職科目
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	将来、「教員になる」という前提での受講態度を望みます。遅刻、欠席、途中退席、私語があった場合は、厳しく評価します。基本的には資料を配布します。課題提出のために、課題図書を購入する必要があります。





シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-17. 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586019301	科目番号	05860193
授業科目名	●教育と社会 I (教育行政・制度論)		
編集担当教員	楠山 研		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	全学モジュール I 科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]21講義室		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部219室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー	随時(要メール連絡)		
授業のねらい	教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。		
授業方法(学習指導法)	簡単な講義を話題提供として、討論形式を中心に、適宜映像資料等を利用して授業を進めていく。各自2～3回、討論のたたき台を提案する機会がある。		
授業到達目標	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的に身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。		
授業内容	回	内容	
	1	第1回 オリエンテーション(この授業の進め方について)	
	2	第2回 授業担当者からの提案(1) 教育行政・制度とは何か	
	3	第3回 授業担当者からの提案(2) 現代における教育行政・制度①	
	4	第4回 授業担当者からの提案(3) 現代における教育行政・制度②	
	5	第5回 討論の進め方と練習	
	6	第6回 討論(1) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	7	第7回 討論(2) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	8	第8回 討論(3) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	9	第9回 討論(4) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	10	第10回 ここまでの議論のまとめと今後の提案作り	
	11	第11回 討論(5) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める	
	12	第12回 討論(6) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める	
	13	第13回 討論(7) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める	
	14	第14回 討論(8) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める	
	15	第15回 教育行政・制度を学んでわかること	
16			

キーワード	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較
教科書・教材・参考書	教科書は指定しない。 参考書 河野和清『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 その他の参考書は授業中に適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	この授業の目標が達成されているかどうかという観点から評価する。 各自の提案 30% 授業中の討論への貢献度 40% 授業中の小レポート等 30%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-17. 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586018901	科目番号	05860189
授業科目名	●教育と社会 I (教育心理)		
編集担当教員	吉村 幸		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 幸		
科目分類	全学モジュール I 科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]21講義室		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	osamu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	アドミッションセンター		
担当教員TEL	2117		
担当教員オフィスアワー	随時(メールで予約)		
授業のねらい	児童及び生徒の心身の発達, 及び学習の過程とその指導, 評価について理解する。		
授業方法(学習指導法)	講義を行う。レスポンスペーパーを利用して受講者の疑問, 質問, 感想に応える。また学生間でそれらを共有する。小レポートを課す。		
授業到達目標	児童及び生徒の心身の発達, 及び学習の過程とその指導, 評価について理解し, 児童生徒の指導の具体的なあり方について自分の考えを述べるができる。		
授業内容	回	内容	
	1	ガイダンス 学校教育と心理学	
	2	学習(1)行動主義的学習理論	
	3	学習(2)認知的学習理論	
	4	学習(3)状況論的学習理論	
	5	学習(4)何が学ばれるか	
	6	発達と学習(1)発達の概略	
	7	発達と学習(2)認知の発達	
	8	発達と学習(3)人格の発達	
	9	発達と学習(4)発達の障害	
	10	意欲と学習(1)学習の動機	
	11	意欲と学習(2)内発的動機	
	12	意欲と学習(3)自己効力感, 自己概念, 適応	
	13	教育と評価(1)教育評価	
	14	教育と評価(2)学力を測る	
	15	全授業の総括	
16	定期試験		
キーワード	教育, 学習, 発達		

教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜、資料を配布する。
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績(70%)、小レポートの提出状況やその評価(20%)、レスポンスペーパーを通しての積極的な授業参加(10%)によって評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.